

〈連載⑱〉



クルーズ産業視察団団長記(1)



大阪府立大学船舶工学科講師

池田良穂

〔東京の〕視察旅行専門業者テクノロジー・トランスファー研究所から頼まれて、「米国におけるクルーズ産業およびマリンレジャー産業調査団」という長い名称の視察団のコーディネーターとして、アメリカのクルーズ産業のメッカであるマイアミと、カリブ海の諸島を再び訪れる機会に恵まれた。期間は9月28日から10月10日までの約2週間。参加者は筆者も入れて11名という少人数だったため、添乗員がなく、筆者がコーディネーター兼添乗員という役目をこなすことになった。国内旅行では毎年のように、船の好きな人々のための船旅を企画し、その添乗員として船に乗りに出掛けているが、海外に家族以外の人間を連れていくのは初めてのことであった。参加者の方々に、「大学の先生にしておくのはもったいない。添乗員のほうが向いているのでは……」などと言われ苦笑しつつ、参加者の心配りに助けられながら、和気あいあいとアメリカを楽しくしかも実り多く回ることができた。参加者の内訳は、船会社関係6名、造船所関係3名、その他2名であった。

〔最初に〕ニューヨークに入った。これは、マイアミへ向かう中継点としてだけでなく、ニューヨークのウォーターフロントの開発や観光船の現状を見る目的も兼ねていた。約13時間の空の旅は、うんざりするほど長い。椅子にすわったままがま

んでできる時間は3～4時間が限度であろう。アメリカで出版されているクルーズ客船の本に、「極東でのクルーズも魅力はあるが長時間の飛行機での移動がアメリカ人観光客には苦痛だ」との記事があったが、まさにその感覚を実感するのに十分な飛行時間であった。時差の調整が結構きつく、参加メンバーの内の幾人かは1週間ちかく時差ぼけに苦しんだようだ。

筆者にとってニューヨークは初めてであったが、町を見た第1印象はロンドンも、アムステルダムも、東京も世界中どこの大都会もあまり変わらない、ということだった。道路の状況がひどいのと、そここのマンホールから蒸気が吹き出しているのを見ると、先端都市ニューヨークもずいぶん老朽化してしまっているようだ。

しかし、エンパイア・ステートビルからみたマンハッタンの景色はすばらしかった。ハドソン川にそっていくつもの楕型の栈橋がいまも並んでいる。客船ターミナルがある方を目を向けると、朝日を浴びて白い客船がキラキラと光っていた。飛行機での疲れもこれでふっとんだ気分だった。その船は、ロイヤル・クルーズ・ラインの最新鋭船クラウン・オデッセイだった。もちろん、日本にはまだ一度も来ていない。さっそく、視察団のチャーターしたバスで客船ターミナルに向かい、このクラウン・オデッセイをすぐ近くでじっくりと

見ることができた。

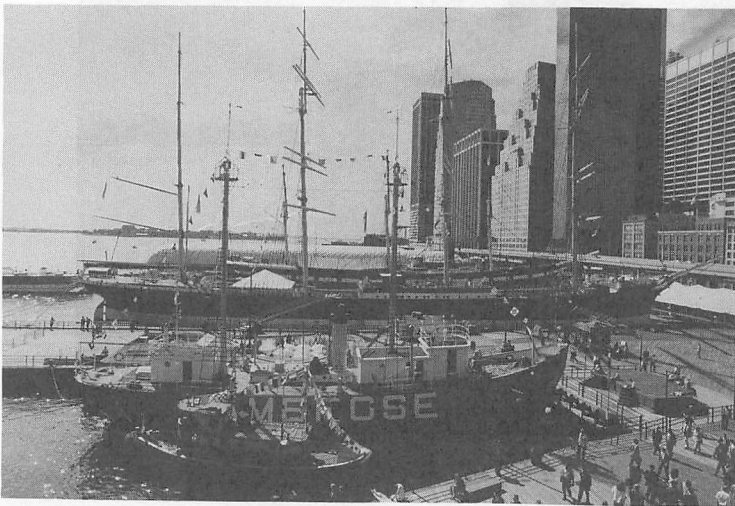
「ニューヨーク」には幾つかの観光船が走っている。有名なのは、マンハッタン島を一周する観光船サークル・ライン。客船ターミナルのすぐ南に、そのターミナルがあり、かなり頻繁に出港していく。マンハッタンの南端のバッテリー公園からは自由の女神のところまで観光船が通っている。また、ニューヨークのウォーターフロント開発として有名なサウスストリート・シーポートからも、クラシックな造りの真新しい観光船が就航していた。

ニューヨークのガイドによると、今最も人気のあるのはニューヨークの夜景を楽しみながら、正装でヨット上のフォーマル・パーティを楽しむクルーズとか。ひとり100ドル(約13,000円)で、約4時間の船遊び。かなり先の週末までほとんど予約で一杯とのこと。マイアミからの帰りにニューヨークに寄る時のこのクルーズの予約を一応入れてもらったが席は取れなかった。今後、東京や大阪ではこの種のナイト・クルーズが脚光を浴び

る可能性もあると思われ、是非実際に体験してみたかったが、誠に残念であった。

「サウスストリート・シーポートは、」帆船や燈台船を係船して一般公開し、古い埠頭を再開発して一大ショッピング・モールとしたもので、マンハッタンのオフィス街にも近いため、昼の食事ときには、沢山のサラリーマン風の人が食事やショッピングを楽しんでいた。今年の春訪れたサンフランシスコのフィッシャーマンズ・ワーフが観光客で賑やかであったのとは、また違った印象を受けたが、もう物流基地としては役に立たなくなった古い港に、再び沢山の人々を引き寄せた東西のウォーターフロントの成功例を実際に自分の目で見て、得られるところが多かった。しかし、ニューヨークにしるサンフランシスコにしる、このウォーターフロント開発と、クルーズ客船が必ずしもドッキングしていないのが客船ファンの筆者としては一寸残念なところである。

今回は、カリブ海での視察についてをご紹介したい。



ニューヨークのウォーターフロント再開発として有名なサウスストリート・シーポート



バッテリーパークと自由の女神を結ぶ観光船「ミス・リバティ」



今年完成したばかりの新鋭クルーズ客船「クラウン・オデッセイ」